



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソヴィエト後のロシアにおける大学改革
Author(s)	ピョートル, シャリモフ
Citation	高等教育ジャーナル, 3, 29-31
Issue Date	1998
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.3.29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29813
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_P29-31.pdf



ソヴィエト後のロシアにおける大学改革

ピョートル シャリモフ

ロシア経済アカデミー

University Reforms in Post-Soviet Russia

Piotr Shalimov

Russian Academy for Economics

（翻訳版）

ペレストロイカ（ゴルバチョフによる経済・社会改革）が始まる前には、ソヴィエトの高等教育の全システムは政府の厳しいコントロールと規則のもとにあった。カリキュラムは共産党の承認を得た国の当局者によってデザインされていた。90年代の初め以来、ロシアの教育システムは重要な改革・刷新の段階にある。

これらの改革におけるもっとも重要な傾向を簡単に指摘しよう。

1. 国の法律によって保証される学問の自治と自由。教育内容に関する、共産党と、度を越えた政府のコントロールは廃止された。ロシアの高等教育機関のいまのありようは多元性と真理への自由な探究という言葉で表してよい。
2. 教育システムのあらゆるレベル、とくに高等教育における私立学校の導入と急速な発展。
3. 教育機関の複数性と多様性。私立の総合大学と単科大学の外にも、ビジネス・スクール、正規の東方正教会の管轄外の宗教学校、国立大学、国際大学のような新しい（ロシアにとって新しい）教育機関がみられる。
4. 高等教育の国際化。これは、国際的なプログラムと、ロシアと国外の双方で学ぶ国際的な学生の増加によって特徴づけられる。
5. 大学の計画的発展。大学の発展を推進するために特別なプログラムが適用されている。

要約すると、ロシアの高等教育システムは民主化と自由化への途上にあるということである。

ソヴィエト社会主義共和国連邦が崩壊したのちロシアにおける高等教育は信じ難いほどの変化を経験しつつある。ペレストロイカが始まる前はソヴィエトの高等教育の全システムは厳しい政府のコントロールと規則のもとにあった。カリキュラムは共産党の承認を得た国の当局者によってデザインされていた。大学に勤務している教授たちは（自然科学のプログラムでのいくつかの例外を除いて）彼ら自身の独自の科目を学生に開講することはできなかった。数学、物理学、化学などの分野でさえも、独自にデザインされた講義科目

は党の諸組織に承認されなければならなかった。社会科学や人文科学におけるカリキュラムには、「CPSUの歴史」、「科学的無神論」、「科学的共産主義」などのイデオロギー的な科目が過剰に詰め込まれていた。高等教育システムは、一方ではソヴィエト連邦が資本主義者との競争に勝つために役立つ上質の技術者と科学者を国家に供給し、他方ではマルクス・レーニン主義的イデオロギーの基盤のうえに人々を教育するよう方向付けられていた。外部世界からの孤立、軍事産業への人的資源の集中、そして世界の

科学の2つのブロック（ブルジョワ科学と社会主義科学）への人為的区別が、世界の学問共同体からの分離とともに、高等教育に深刻な危機を招いた主な原因であった。

高等教育における危機は、教育の質の低下、とくにいわゆる「地方大学」（すなわち、モスクワ、セントペテルブルグそしてソヴィエト共和国の首都以外にある高等教育機関）におけるそれで特徴づけられていた。知的資源と文化的資源は各首都、とくにモスクワとセントペテルブルグに集中されており、それが、より上質の生活という理由とともに、才能あるインテリを地方大学からこれらの地域へ来るように仕向けた。

高度に統制された教育管理および計画的な入学許可と卒業が、入学危機を招いた。乏しい収入と低い社会的地位しか得られない技術者の過剰生産は、一方では技術的専門分野に向けられたコースに向かう学生のレベルを低下させ、他方では人文科学分野での大学入学競争を実質的に強めた。またバイオ技術、情報科学、マイクロエレクトロニクス、経営、社会学、心理学でのコースを設ける大学が足りなかった。高等教育が非効率なことに加えて、再訓練システムは時代遅れであり、しかもある計算では科学技術の新領域での再教育に対する需要の1パーセントしか満たさなかった。

ソヴィエトのノーメンクラトゥラ（共産党と政府の官僚階級）は、大学システムをそれ自身の社会的再生産のため、あるいはあまり教育を受けていないメンバーに高等教育機関からの卒業証書を与えるために利用した。身内びいきや縁故者登用が、少なくとも70年代の後半以来ソヴィエトの大学に広がっていた。高等教育を受けるというその概念自体が非知識階級的な社会グループのあいだには不人気であった。というのは大学卒業生の平均給与が普通には工場労働者のそれよりも低かったからである。

「鉄のカーテン」の後ろに隠れて、高等教育のソヴィエトのシステムは現代世界に起きている国際化と大域化への要求には全く沿っていない。外国から来た出版物は厳しく調べられ、公式的イデオロギーの要求条件に適わなければ、図書館の特別書庫に入れられ、そうやって、一般大衆には利用不可能で、大学の学生、教師、研究者にはほとんどアクセスできないということになった。

ソヴィエトの大学にいる外国人学生は、ほとんど

社会主義の国家と工業的に発展途上の国からに限られていた。彼らとソヴィエトの学生の接触は最小限にされ、それらはパトリス・ルンバにちなんで人民友好大学とよばれる「外国人学生指定地」に高度に集中されていた。

90年代の初めに出発して、ロシアの教育システムは重要な改革と革新の段階にある。これらの改革の最も重要な方向を簡潔に指摘してみよう。

1. 国の法律で保証される学問の自治と自由

教育内容に関する共産党の統制と政府の過剰な統制は廃止された。イデオロギー的な科目は大学のカリキュラムから抹消された。図書館の特別書庫は一般に公開された。大学には次のような権利が認められた：コースの内容を決定すること、カリキュラムに必要な変更を加えること、新しいコースを開講すること、財源を再配置すること、予算を大きくする目的で彼らの大学設備と研究プロジェクトを使うこと。

2. 教育システムのあらゆるレベル、とくに高等教育における私立学校の導入と急速な発展

いくつかの統計によると、私立学校の拡張の年であった1994年には私立大学が毎週誕生し、1994年の終わりにはそれらの数は約200に達した。私立学校は人々に高等教育に近づきやすくにした。かつて35歳と定められていた年齢制限はたいていの私立の学校と大学で廃止された。1992年には520,000人であったが、1996年には700,000人の学生があらゆる種類の高等教育に入学を認められた。

3. 教育機関の複数性と多様性

私立の大学とカレッジ以外に、ビジネススクール、正規の東方正教会の管轄外の宗教教育学校（たとえばドイツ大学、ユダヤ大学など）、国際大学（パシフィック・コースト大学、フレンチ・カレッジ、日本大学）のような新しい（ロシアにとって新しい）教育機関がみられる。この学校の複数性は大学間の競争を強めたが、一方では、未来の学生（大学入学資格試験合格者）はさまざまな選択肢を得ることになった。

高等教育の多様性は、ソヴィエト後のロシアにおいて自由と基本的人権を保証するものの一つとして役立っている。

4. 高等教育の国際化

現代のロシアの大学にはとくにビジネス、経営、経済、公共行政の分野において国際的なプログラムが数多く存在する。同時に、多くのロシアの大学では、ロシアに学びに来る外国人学生のための特別プログラムを確立している。それは、少なくとも、ロシアの高等教育がアメリカ、ヨーロッパそして日本で明らかに見られる国際化にむかう流れに追いつきつつあることを意味している。

5. 大学の計画的発展

大学の発展を推進するために特別のプログラムが適用されている。このプログラムは6つの主要な方向を含んでいる：(a) 教育、科学そして文化の地域における中心としての大学、(b) 基本的研究センターとしての大学、(c) さまざまなレベルに対応する教育システムの教育手法の中心としての大学、(d) 大学教育と科学に関する世界のシステムへのロシアの大学の統合、(e) 市場経済の条件のもとでの大学の発展、(f) 大学のサイエンスパーク。

一般的には、ロシアの高等教育システムは民主化と自由化への途上にある。

（訳：西森 敏之）